

令和3年度 第1回 学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨

日 時： 令和3年11月1日 15:30-17:30

場 所： Web 会議システムにより開催

議 事：

1. 議事要旨確認

喜連川本部長から、資料3に基づき説明があり、内容に意見があれば本日から1週間以内に事務局に連絡いただくこととして了承された。また、事務局より、前回会議にてメール審議へ持ち越しとなった、学術情報ネットワーク運営・連携本部会議規程改正のその後の対応について、メール審議承認の後2021年4月から施行された旨説明があった。

2. 来年度以降に向けた実施体制について

合田委員及び喜連川本部長より、資料4に基づき、学術情報ネットワーク運営・連携本部会議の来年度以降に向けた実施体制について説明があり、次の議論があった。

- ・ 研究データ基盤と MDX との関係について質問があり、それに対し、現時点の役割として一緒にするというものではないが、今後の方針について着地点を関係者全員で模索中との認識であること、さらにその先については、しばらくは並行運用となると思うが、日本全体の情報基盤をどのようにしていくかという議論の中において、今後考えなければならないだろうという意見があった。
- ・ 様々な研究者がスパコンなどで計算した大きなデータ等にアクセスできることは理想だが、そういうデータを扱うことには難しい問題もあり、その点は様々な場で議論いただき研究者が使いやすい基盤の進化につなげられるよう一緒にご協力させていただきたい等の意見があった。また、研究データ基盤と MDX は協力して接続できるように進めていて、JAIRO Cloud の公開機能やモバイル SINET とも連携していくとの発言があった。
- ・ 情報基盤センターの立場からは、研究データ基盤というものが新しくミッションに加わったように見えているが、それが大学側に浸透していないと感じているので広く発信して欲しいという意見があり、それに対し、色々な場で案内はしているが、利用の意識が浸透していくのには時間がかかることが想定され、例えば JAIRO Cloud は開始から利用者の利用がシフトするまで15年程度かかっていることの説明があった。また多くの機関ではデータ基盤は研究推進・図書館・基盤センターなどといった複数の組織にまたがった構造になっていたり、機関によっては新しい組織を立ち上げる動きもある等の説明があり、そのような組織に積極的にアピ

ールしていくこととなった。

- ・ DX は重要なキーワードであり、クラウド運営委員会の名称について DX 推進を組み込めないかという意見があつて、それに対しいくつかの意見交換があり、DX とクラウドは共通点が多いことは確かで、DX は全体的に関わるキーワードでもある等の意見があり、引き続き検討することとなった。
- ・ 現在、学術認証運営委員会が独立していることについて経緯等を問う意見があり、それに対し、かつては運営・連携本部会議の作業部会の1つであったが、学認やUPKI が正式サービスとなり独立することも視野に入れ、海外での認証の動きも見て独立させた経緯があること、ただ、現状では独立して進めていくメリットはあまりなさそうなので、この機会に一緒に活動することでやりやすくなるのでは等の意見があり、引き続き検討していくこととなった。

上記、意見を踏まえて次回本部会議で引き続き議論としたいと喜連川本部長から意見があつた

3. ネットワーク事業・作業部会報告

漆谷委員（ネットワーク作業部会主査）より、資料5に基づき報告があつた。

4. クラウド事業・作業部会報告

合田委員（クラウド作業部会主査）より、資料6に基づき報告があつた。また以下の意見交換があつた。

- ・ クラウド利活用セミナーはオンライン開催にしてから参加人数が伸びているので、今後もオンライン開催方針を維持してはどうかという意見があり、それに対し、ハンズオンなどオンライン開催が難しい場合もあるが、オンライン開催を基本とするよう検討する旨の回答があつた。

5. セキュリティ事業・作業部会報告

南委員（セキュリティ作業部会主査）より、資料7に基づき報告があつた。

6. 情報セキュリティポリシー推進部会報告

中村委員（情報セキュリティポリシー推進部会主査）より、資料8に基づき報告があつた

7. 研究データ基盤運営委員会活動報告

込山准教授（山地研究データ基盤運営委員会委員長代理）より、資料9に基づき報告

があった。

8. 学術認証事業・学術認証運営委員会報告

坂根学術認証推進室長より、資料 10 に基づき報告があった。

9. 2021 年度学術情報基盤オープンフォーラム活動報告

佐藤学術基盤課長より、資料 11 に基づき報告があった。

10. その他

次回開催日は、後日事務局から開催候補日について案内する旨連絡があった。

以上